

平成27年度第2回南あわじ市総合教育会議会議録

1. 日 時 平成27年11月9日(月)

午前10時32分開会

午前11時57分閉会

2. 場 所 南あわじ市役所 本館3階 304・305会議室

3. 協議事項

(1) 平成27年度主要事業等進捗状況について

(2) 平成28年度教育施策の方向について

(3) その他

4. 出席又は欠席した構成員氏名

出席構成員

<南あわじ市>

南あわじ市長 中田 勝久

教育長 岡田 昌史

教育長職務代理者 前川 美津子

教育委員 轟 孝博

教育委員 岡 一秀

教育委員 郷野 祐佳

<学校組合>

管理者 中田 勝久(兼務)

教育長 岡田 昌史(兼務)

教育長職務代理者 山下 富弘

教育委員 前川 美津子(兼務)

教育委員 郷野 祐佳(兼務)

欠席構成員

<学校組合>

教育委員 河上 和慶

5. 事務局関係職氏名

企画部長

橋本 浩嗣

ふるさと創生課長

北川 真由美

教育次長

藤岡 崇文

教育総務課長

山見 嘉啓

学校教育課長

廣地 由幸

社会教育課長

福原 敬二

体育青少年課長

柏木 浩一

教育総務課課長補佐

坂田 真由美

教育総務課係長

榎勢 美和

開 会 午前10時32分

【藤岡教育次長】 みなさん、おはようございます。

定刻になりましたので、只今より、平成27年度第2回南あわじ市総合教育会議を開催いたします。わたくし、本日の司会進行役を務めさせていただきます南あわじ市教育委員会教育次長の藤岡でございます。よろしく願いいたします。

それでは、開催にあたりまして当会議の主催者であります中田市長より、ごあいさつをお願いいたします。

【中田市長】 おはようございます。

教育委員の先生方には、何かとお忙しい中、今日の平成27年度第2回南あわじ市総合教育会議にご参集賜りありがとうございます。

今各地でいろんな社会問題になりうる話題も多いにあるわけですが、また先生方からも後ほどの協議の中でお話があるかと思しますので、よろしく願いいたします。

先日の11月1日日曜日に、健康広場におきまして平成17年の合併から10周年を迎えることから大規模な南あわじ市総合防災訓練を実施しました。私も常々、災害のことについては、それを想定したいろいろな訓練が重要であることを認識しております。南海・東南海大地震、それによる大津波への防災・減災でございます。

学校においても、いろいろとその対応の教育をしていただいております。当然、子どもの行政といたしましては、学校・家庭・地域といった連携した取り組みが大事になってくるわけです。先程申し上げました訓練は、いざという時には、そういう訓練を重ねていることが被害を最小限におさえられると考えております。

今年もちょうど半年を過ぎたところでございますが、今年度の教育関係主要事業の進捗状況、また来年度の教育施策の方向について、議論を深めていきたいと思っております。どうぞ、積極的なご意見を出していただきまして、この会議が子どもたちの将来に向かっての明るい南あわじっ子の成長につながるものとなりますように願っております。

たいへん、あちこちと話が飛んでしまいましたが、今日はよろしく願いいたします。

【藤岡教育次長】 ありがとうございます。

本日の会議につきましては、進行は事務局で行わせていただきたいと思います。

市長、それでよろしいでしょうか。

【中田市長】 はい、結構です。

【藤岡教育次長】 それでは、引き続き事務局の方で進行をさせていただきます。

まず本日の出席者でございますが、お手元の資料の方に総合教育会議の名簿を付けさせていただいておりますので、それをご覧いただきたいと思います。第1回目に当会議の構成員をご紹介させていただいておりますので、今回は省略させていただきます。なお本日、南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員の河上洲本市教育長につきましては、公務のため欠席と聞いておりますのでご報告させていただきます。

なお、この会議については、自由闊達な発言によります委員間討議が基本でございますので、よろしくお願いいたします。

会議の次第のとおり、本日の協議事項につきましては、1点目は、「平成27年度主要事業等進捗状況について」、2点目は「平成28年度教育施策の方向について」の2件を主な議題といたしておりますので、よろしくお願いいたします。

協議に入る前に、配布しております資料の確認をさせていただきたいと思います。

(資料確認)

【藤岡教育次長】 それでは、協議事項の(1)、「平成27年度主要事業等進捗状況について」に入りたいと思います。

お手元の資料の3ページをお願いします。

今年度もさまざまな教育施策に係る事業を行ってまいりましたが、とりわけ教育委員会各所管課におきます主要事業等を掲載させていただいております。

まず、所管課長より事業等の取り組み内容や進捗状況について、結果も含めまして、資料の順にて各課長よりご報告申し上げます。

まずは、教育総務課所管事業から報告させていただきます。

【山見課長】 教育総務課所管事業につきましては、幼稚園6園、内3園が今現在交流しております。また組合立の広田小学校・中学校を含め、小学校16校、中学校6校の施設・設備等の教育環境の整備を行っておりますが、今日は主なものを2件報告させていただきます。

まず1点目は、中学校の空調設備の整備事業についての進捗状況についてです。

広田中学校を含め6校の整備工事の実施を行っております。沼島中学校以外については、予定どおりに夏休みに工事が完了し、設置整備ができています。沼島中学校については、入札不調により再入札を行いまして、遅れて来年1月中旬の完了予定です。

2点目は、伊加利こども園の平成28年度開設に向けた施設改修事業についての進捗状況及び今後の予定について報告させていただきます。

この9月の市議会にて、補正予算にて伊加利幼稚園園舎及び伊加利地区公民館の一部施設の改修工事費を計上させていただきました。明日の11月10日に入札が実施されて、3月中旬には工事完了予定です。なお、11月2日に阿那賀幼稚園に引っ越

しを済ませて、管理運営面についての諸準備を調整中です。

定員は40名で計画をしております。現在、入園者数は3学年で16人です。10月末で入園申し込みを締め切ったところの現況ですが、3才から5才の3学年で18名、3才未満児が6人、合計24人の子どもたちの入園申込みがあったということです。

以上で報告を終わります。

【藤岡教育次長】 引き続き、各課からの報告をさせていただきます。

続きまして、学校教育課所管事業につきまして、よろしく申し上げます。

【廣地課長】 学校教育課につきましては、まず1点目に南あわじ市いじめ問題対策連絡協議会を開催いたしました。

南あわじ市いじめ防止基本方針につきましては、ホームページに掲載し、地域の多くの方に周知をしております。7月にこの連絡協議会の第1回目を開催いたしまして、関係機関の皆さんに集まっていただきました。委員長には吉備国際大学地域創成農学部長の谷坂隆俊氏が就任されました。現在の南あわじ市の状況、そして今後の方向性について、1回目に話し合いをもちました。特にその中では、広田中学校が取り組みました「いじめを決して許さない集団づくり」ということで、生徒会自らが、学校からいじめをなくそう、という取り組みをした実践事例をもとに、どの学校でも児童生徒自らがいじめをなくしていく取り組みを推奨していくというふうな例を示しながら、話し合いをもちました。南あわじ市としては、「南あわじ市いじめ防止プロジェクト」ということで、このように児童会や生徒会から盛り立てていくことを推奨していきたいと思っております。2回目を12月に開催する予定にしております。

次に防災教育の充実についてですけれども、防災教育につきましては、福良小学校、阿万小学校を中心に、各学校で地域づくり協議会と連携した避難訓練を、また保育所との連携で、小学校6年生が保育園児と手をつないでいっしょに避難する。あるいは、いっしょに避難行動をする、というような取り組みがされております。また、兵庫県教育委員会の「明日に生きる」という防災教育副読本を通じて、それぞれの学校で防災教育を進めております。その中で特に平成27年度につきましては、全小学校5年生の4泊5日で行われております体験学習・自然学校の中で、防災プログラムを導入するという取り組みをしているところでございます。

3点目に南あわじ市の通学路交通安全プログラムについてですけれども、「南あわじ市通学路交通安全推進会議」を7月に開催いたしました。これは、国交省・県・市・警察署・PTA・教育委員会が入って、いっしょに合同点検を実施する取り組みでございます。6月にそれぞれの学校で予備点検を行っていただきまして、7月のこの会議において合同点検をする箇所を決めまして、8月に3回にわたりまして合同点検を

行いました。その結果、横断歩道の色が薄くなっているのので、塗り直しをしよう、また市道のグリーンベルトが必要である、新たに横断歩道が必要ではないか、というふうなことで警察署等も含めて検討いたしまして、現在その取り組みを進めていっているところでございます。

以上3点、学校教育課所管事業について説明させていただきました。

【藤岡教育次長】 続きまして、社会教育課所管事業について、お願いします。

【福原課長】 私ども社会教育課につきましては、社会教育事業のほかに施設としまして、公民館・図書館・美術館・埋蔵文化財調査事務所の所管をしております。その中で平成27年度事業の進捗状況ということで、銅鐸関連について報告をさせていただきます。

皆さんも新聞等でご承知かと思うのですが、これまでの経過について少し説明させていただきます。この銅鐸につきましては、市内の石材加工所の工場の方から4月8日に第1号・第2号が発見されました。その後調査をしますと、全部で7個の銅鐸が発見されて5月19日に新聞並びにテレビで報道されております。そしてこの銅鐸につきましては、県の指導のもと緊急調査ということで現在も調査を行っているわけなのですが、その調査の過程で入れ子の銅鐸の中に舌が入っているということで、これは全国でも大変珍しい事例で、6月24日にメディア発表されております。その後、舌並びに銅鐸にひもの痕跡がついているということで、8月13日に同じくメディア発表させていただいております。南あわじ市としましては、銅鐸を皆さんにみていただきたいということで、7月14日から8月16日までの30日間、滝川記念美術館で展示をさせていただき、5,860人の方にご覧いただいております。1日平均195人ということです。そのうち、56%が島外からのお客さんです。島内が残り44%で、そのうち22%が南あわじ市内の方です。

実は今日と明日、県の指導のもと埋蔵品がある可能性のある場所を電波探知機、レーザー探査を行っております。

今後、12月に松帆銅鐸の調査研究委員会を立ち上げて、今後どういうふうにして調査を進めていくかを協議していきたいと考えております。また、2月7日には、市民向けのシンポジウムを開催したいと考えております。

次に施設の中で、中央公民館の駐車場の拡張事業につきまして、報告をさせていただきます。現在中央公民館には、126台の駐車可能スペース、それか旧三原庁舎で99台の駐車スペースがございます。全部で235台となるわけですが、公民館の大ホールのキャパが500人ということで、大きな事業をしますと駐車場に不便な状態が続いておりますので、現在、この拡張について協議を進めております。現在の状況をいいますと、順調に進んでおりまして、今年度末までには契約を何とかできるので

はないかと考えております。スペースにつきましては、約100台の駐車が可能になるのではないかと考えております。

以上、簡単ですけれども社会教育課所管事業の説明とさせていただきます。

【藤岡教育次長】 つづきまして、体育青少年課所管事業についてお願いします。

【柏木課長】 体育青少年課の所管事業の1点目、サッカー場整備事業（候補地の選定）についてですが、候補地の選定につきましては、これまでも調査・検討をしてきましたが、現在におきましては、比較検討するための資料を作成準備しているところでございます。

次の学童保育事業については、沼島を除く未開設校区につきましては、9月にアンケート調査を行いました。その結果をもとに開設に向けまして検討中でございます。今後につきましては、学童保育には入所要件というものがございますので、入所を希望される保護者を対象に、より正確な入所見込人数を確認していきたいと考えております。

以上でございます。

【藤岡教育次長】 ただいま、平成27年度の主要事業等進捗状況ということで、所管します各課長の方から報告がありました。非常に駆け足で今年度の事業の取り組み内容でありますとか、進捗状況等についてご報告申し上げました。何かこれにつきまして委員の皆さんよりご意見がありましたら、出していただきたいと思っております。なお、内容によっては担当課長より答弁させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

【郷野委員】 いじめの実態についてであります。先日のニュースでは、いじめの実態は学校からの報告と実態に大きな差がありました。南あわじ市では、どうでしょうか。

【廣地課長】 いじめの件についてのご質問でありました。いじめにつきましては、名古屋市の方で、中学校1年生が電車で飛び込む自殺が報道されておりました、非常に痛ましいことが続いております。

そういった中で教育委員会の方も、平成26年度はいじめの調査について再度の調査の依頼がありました。南あわじ市においては、学校からの毎月の生徒指導の項目ということで、いじめについての報告をいただいております。実態としては、平成26年度再調査をした結果、小学校で8件、中学校2件の報告を受けております。これらにつきましては、すべて解決済みと聞いております。なお、平成27年度9月現在では、小学校4件、中学校2件の報告がありました。これらについてもすでに解決済み

と報告を受けています。

【郷野委員】 人は誰でも差別する心、いじめ心、怠け心を持っています。差別する心は、いじめを生み出します。怠け心は、学力の低下を招きます。それらを少しでもなくすために繰り返し、繰り返し、指導が必要です。それが学習であり、そしてそこから得たものを発展させるのが教育だと思います。

教育の充実が地域を豊かにし、人々を幸せにします。このことを学校は特に大切に取組み組んでいただければと思います。

【藤岡教育次長】 答弁は、よろしいですか。

【郷野委員】 結構です。

【藤岡教育次長】 他にございませんか。

【岡委員】 いろいろあるのですが、まず防災教育についてですが、全校に防災頭巾を配っていただいていることは素晴らしいことだと思います。先日の学校訪問で、ヘルメットを全員がかぶって登下校していると。机の横にもかけてありました。このヘルメットと防災頭巾では、避難するとき、どちらの方が有効なのでしょう。

いろいろなことを言うのですが、南あわじ市内にできた吉備国際大学と南あわじ市内の小中学校との関わりというものを伺いたいのです。せっかく市内に大学ができたのですから、市内の学校との関わりはどんな状況なのかをお伺いしたいと思います。

3点目は、サッカー場のことなのですが、一斉清掃の作業をしてもサッカー場の話題が出ます。どこに、どんな規模のものができるのか、地域の話題になっておりますので、状況をお伺いしたいと思います。

最後に学童保育についてですが、定例の教育委員会でもお願いして、いろんな働きかけをしていただいていることは、大変素晴らしいことと思っております。地元の校区も小規模校ですが、両親が勤めていて学校から帰ってもだれもいない、また兄弟が少ないこともあり、学童保育を開始していただけたら有難いと思います。

もう一つ、通学路の緑色のベルト、あれは非常に効果があると思うのです。できたらもっと広げていってくれたらと思います。

以上です。

【藤岡教育次長】 学校教育課所管の質問が何点かあったかと思えます。まず、防災教育に関連するところで、防災頭巾とヘルメットの件、吉備国際大学との関わり、通学路

での交通安全というところで、グリーンベルトの件。この3点について、学校教育課長より答弁をお願いします。

【廣地課長】 1点目の防災頭巾、ヘルメットの件ですが、南あわじ市におきましては、今現在防災頭巾につきましては、新1年生すべてに配布をしております。それを個人持ちとして6年間しっかりと使っていこうということになっております。学校においては自分の普通教室以外にも、理科室・音楽室・図工室等の特別教室にも、いざ地震が起こった時に、どこにいてもその防災頭巾を使えるような方法、あるいは卒業する時にお家に持って帰って家ででの防災に活用する等の方法を踏まえたくて、配布をしております。

先程、委員から出ましたヘルメットを着用している小学校につきましては、何校かございますが、ヘルメットを常時机の近くに置いて使う、或いは防災頭巾をすでに椅子につけてあるところにつきましては、その防災頭巾を利用する。ヘルメットを着用しており、また防災頭巾も机や椅子に常時つけているようなところもございます。おそらく地震が起こったときに一番近くにある物、近くに防災頭巾があったらそれを利用するのが適切であろうかと思えます。

今後、委員さんがおっしゃるように防災頭巾とヘルメットの関係については、精査していきたいと思えます。

次に吉備国際大学との関わりですが、現在も小学校等で出前授業という形で、大学の先生に来ていただいてご指導をいただいている、というふうなことがございます。吉備国際大学の近くの学校につきましては、それぞれの学校の行事等に参加していただいているところもあります。たとえば、三原志知小学校では運動会に吉備国際大学の学生に来ていただいて、いっしょに交流しているといった取り組みをしております。吉備国際大学には、是非いろんな関わりを、というご意見をいただいておりますので、いろいろな部分で相談をさせていただきながら、これからも関わっていききたいと思えます。

それとグリーンベルトの件ですが、確かにいろんなところにグリーンベルトができて、子どもたちの安全とともに、ドライバーがそれを見て、しっかりと安全運転に心がけるといった効果があると思えます。今回の合同点検においてもグリーンベルトを付けてほしいというところが多くありました。よって、それらが実現し、より安心安全な通学路になればと思えます。

【藤岡教育次長】 続きまして、体育青少年課の所管でございますサッカー場の整備の関係、小規模校での学童保育の実施の検討について、この2点につきまして体育青少年課長からお願いします。

【柏木課長】 サッカー場の整備については、先程申し上げましたとおり、現在候補地の検討中でございます。候補地につきましても、比較ができるような検討資料を作成中であります。その他、規模等につきましても今の段階で報告できることはございません。

続きまして、学童保育でございますが、9月に体育青少年課の方でアンケートをさせていただいております。この件につきましても、先程申し上げましたように、入所要件がございますので、その辺を精査いたしまして必要な方の人数を把握させていただきたいと考えます。そして、学童保育には場所も必要ですし、指導員も必要ですので、そういったことを並行して確認しながら、未開設校区における開設に向けた取り組みを検討していきたいと思っております。

以上です。

【藤岡教育次長】 以上でよろしいでしょうか。

【岡委員】 ありがとうございます。

【藤岡教育次長】 ほかにございませんか。

【山下委員】 テレビ等でよく見るのですが、モンスターペアレントとって、学校へのクレマーのようなことを言うてくる人、南あわじ市の現状は、どのようになっているのでしょうか。また、それに対する対応はどのようにされているのでしょうか。

【廣地課長】 モンスターペアレント、不合理な要求をしてくる人という意味と思うのですが、現状的には、さまざまそれぞれの学校でクレームを言うてくる保護者はあるかと思っております。それらにつきましては、基本的には学校長中心に丁寧に学校の実情を説明し、発信していく、あるいは、担任に対する要望等であれば、担任を交えた中で校長がリーダーシップを取って丁寧な説明をしていくというふうなことで対応をしています。日頃から校長の方から学校だよりやあんしんネットを通じて、開かれた学校・信頼される学校づくりについて発信しています。教職員に対しても、一人ひとりの子どもたち、時には保護者への連絡も踏まえた対応をするように指導をしております。

教育委員会に対して、学校への批判・苦情などもありますが、これらにつきましては、学校教育課の方で、学校と連携しながら対応しております。最終的に難しい課題については、私課長の方で対応をさせていただいております。

【山下委員】 いじめ問題に関連して、最近学校で動物とかを飼育したりしているのでしょうか。動物を育てたりする体験を通して、命を大事にするという心を育ていける

のではないかと思います。

それと、広田小中学校のブラスバンドは、非常にすばらしく、見せていただいて感動しているのですが、あれに管弦楽器を加えてオーケストラを構成するということは、可能性としてはあるのでしょうか。

【藤岡教育次長】 それでは今の山下委員からの2点について、学校教育課長、よろしいでしょうか。

【廣地課長】 いじめ問題につきましての関連した質問でございます。

今現在、小学校3年生で、環境体験学習をしております。この環境体験学習では、基本的には、命を大切にすると、少年の犯罪事件等々が多く起こった時に、この体験学習ができました。例えば、川に行って川ガニや魚、生き物を実際に飼育しながら、その中で実際に死んでしまいます。というふうに命の営みというものを身近にみるということが、元々の環境体験学習のスタートでありまして、そういった学習を通じて命の大切さを伝えていきたいと考えております。

次に広田小中学校の吹奏楽部については、バイオリン等の追加ですが、子どもによっては、そういう楽器を習っている小中学生がいます。それらをクラブ活動のオーケストラとしてやっていくには、少し今すぐに対応できることは難しいことではないかと思っておりますけれども、ご意見として承っておきます。

【藤岡教育次長】 他の委員さんは、いかかでしょうか。

【前川委員】 次の協議事項の平成28年度の教育施策の方向についてにも関係することですが、27年度の事業の進捗状況の報告の中にはなかったのですが、27年度の南あわじ市の主要施策の一覧の中で、特にすばらしい取り組みであると感じているのは、「3才児以上の保育料の無料化事業」です。これは全国に先駆けて子育てをしている保護者にとっては、これほど嬉しいことはないのではないのでしょうか。

それに関連づけて、学校は、学力保障ということが重要課題であります。これから社会に旅立っていく子どもたちのベースになるのは、確かな学力を身につけるということです。小中学校の学力をいかに高めるということは、今年も来年もこれからずっとその課題があるわけです。今、なぜ私が3才児の話をしたかといいますと、幼保連携型認定こども園への移行を望んでいます。その理由は、今現在南あわじ市内には、保育所と呼ばれる施設が13か所あります。来年度の募集定員をみますと1205人を受入れることができます。そんなことを考えていきますと、全員が入所できて、年長さんは就学前教育という重要な時期を保育所で過ごすこととなります。幼保連携型にしていいただければ、学校教育と保育を一体化した本当に小学校にあがってからの生

活や学習の基盤の育成につながるような教育がなされるようになり、すべて子どものためになります。

幼児期というのは、大人が考える以上にいろんな素養を持っております。その引出になるのが幼児教育だと思っております。今回、伊加利こども園が新しく設置されることもありますので、他の保育所につきましても幼保連携型を検討していただくと、更に学びのベースも出来上がり、小学校での学力向上への期待がかかるのではないのでしょうか。

最近では兄弟が少なくなり、一人二人で幼児期を過ごすよりも集団の中で生活することで、適切な指導を行うことで社会性だとか社会規範、そのベースになるものが身につくについて、非常に子どもたちにとって幸せなことだと思います。幼保連携型認定こども園で南あわじ市の幼児教育を進化させてほしいと思います。

2点目なのですが、今年、子ども議会が開催されて、ケーブルテレビで拝見させていただきましたが、子ども目線で南あわじ市のこれからのことを考えて意見を述べておりました。10年後には、あの子どもたちも成人になって活躍してくれると思いますので、記念行事というよりも、今後も定期的に開催していただけたらと思います。子ども目線で発言しているのですが、それに対して行政の方が非常に丁寧に対応されていたのは感動的でした。自分たちの意見が市に届くんだ、というようなことを子どもが味わえるような機会を与えていただければと思います。

以上です。

【藤岡教育次長】 ただいま、市の子育て施策に併せまして就学前教育に対するご意見と、先日開催されました子ども議会のことについて、ご意見ができました。

このことについては、学校教育課長、お願いします。

【廣地課長】 まず、保・小、幼・小の連携でございますが、やはり「つながり」が子育て施策だと思っています。「つながっていこう。」という気持ちが子育ての基本だと思いますので、よいご意見をいただいたと思っております。

南あわじ市では、「子育て支援会議」というものをやっております。この会議においては、教育次長が委員にも入っておりますので、そういったご意見を踏まえた中で計画されていくのではないかと思います。

子ども議会につきましては、私も参加させていただきましたけれど、本当によい機会を与えてくださったし、本当によかったと思っております。議会の皆さん、議会事務局等々と協議しながら、来年度も実施できるように協議したいと思っております。

【藤岡教育次長】 よろしいでしょうか。

【前川委員】 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

【藤岡教育次長】 いろいろなご意見をいただいております。
もう1点くらい、他の委員さんからあればどうぞ。

【轟委員】 私からは、2点申し上げたいと思います。

平成28年度の教育施策のことを聞いてからの方がいいのかもわかりませんが、文化財の保護及び伝統芸能の伝承の項目の中で話があるのではないかとと思うのですが、銅鐸をどのように南あわじ市の活性化に活用していくのかどうか。銅鐸館を造るのか、いろんな考えがあると思いますが、一般の人からは、早く目玉にして活性化してほしい、というような意見をあちこちで聞きますので、将来どのように、いろんな構想があると思うのですが、具体的な案がございましたら、聞かせてほしいと思います。

【藤岡教育次長】 銅鐸のことについては、次に平成28年度の教育施策のところでお話させていただくことになっておりますので、その報告を聞いてからでよろしいでしょうか。

【轟委員】 それで結構です。

【藤岡教育次長】 それでは、委員の皆さんから貴重なご意見をたくさんいただきました。

各所管課長の方からも、その都度答弁させていただいたのですが、ここで、今年度事業全般につきまして、また委員の皆さん方よりいただきましたご意見等を踏まえまして、市長の方から何かご意見をだしていただければと思いますので、よろしく申し上げます。

【中田市長】 先ほど来、5人の先生方からいろいろと具体的なご意見、ご質問をいただいておりますが、非常に私どもこの会議の中でいろいろ検討していくべき発言があったと認識しております。

特に、いじめの問題に対して関心が高いことがわかりました。また、地域との関わりということで、学童保育、また吉備国際大学との関わり、といったことがありました。また、これからの子どもたちの学力の向上につけて、幼保の連携等ありました。私も委員の先生方のいろいろな発言と全く同感でございまして、ただ教育委員会の方に少しお願いをしたい。

それは、いじめという大きな問題であると、なかなか一般に公表することは難しい部分もあるかと思いますが、その他の問題について、よく防犯灯なんかのいろいろな学校からの質問なり、また連合淡路の中で先生方も加わっておりまして、そういった

方たちからも質問がございます。そういう一般的に公表してもいいようなことなんかは、できるだけ教育委員会と我々行政がうまく摺合せをして、ちゃんと報告すべきと思っております。また、そういうことが保護者なり、地域の人たちの安心安全につながると思いますので、今後教育委員会から提案してもらうのか、私どもから提案するのかわかりませんが、その辺を整理したいと思います。

私もいろいろなところに出向きますと、よく言われることは、先般も教育次長なりに、かなりきついお話をしたのですが、設備、ハード面は行政としていろいろと積極的にお金を工面して取り組めるのですが、やはりソフト面、先ほど少し先生方からお話があった学力の問題、ここらをもう少し真剣に取り組んでほしいと思います。やはりいろいろ、直接ではないですが、間を通して聞いた話ですが、県病の先生は、淡路に来て子どもの教育が都市部とだいたいの学力の差があるので、自分の子どもはやはり都市部においておきたいという願望があるようです。旦那さんは淡路に来て、奥さんと子どもは来るのをしぶる、という話は、以前から聞いた話で、最近もあるようです。そういうことも含めてこれからの子どもの教育は、これはもう子どもが本気でやらないといけないのですが、そういうところも学校も真剣に考えていただかないと、と思っております。

以上です。

【藤岡教育次長】 協議事項1番の平成27年度主要事業等の進捗状況について、他に何かご意見ございますでしょうか。

ないようでございますので、協議事項の1番につきましては、これで終了させていただきたいと思っております。

続きまして、協議事項の2番目、先程も28年度に向けたご意見も何件かあったのですが、平成28年度教育施策の方向について、ということで、資料に今後実施したいと考えております施策等について掲載しております。

まず、先程の同じように各担当課長の方より順にご説明をさせていただきたいと思っております。

それでは、教育総務課所管事業とし、小中学校の教育環境整備について説明させていただきます。

【山見課長】 まず、教育総務課所管事業の小中学校の教育環境の整備について、2点報告、今後について報告させていただきます。

まず1点目は、小学校の空調設備の事業についてです。今年度、実施設計を実施中の4校、広田小、松帆小、榎列小、福良小の4校の整備を行いたいと考えて調整中ということです。平成31年度までに全校を整備完了へ計画、ということで今調整中ということです。

次に2点目は、小中学校のICT環境整備事業についてです。パソコンの普及ということですが、平成20・21年度に整備しました各小中学校の情報教育及び校務関係のIT機器の更新を行う必要がございます。無駄な投資にならないよう、現在の使用状況についても考慮しながら、またタブレットの導入なども計画ということで調整中です。

以上です。

【藤岡教育次長】 続きまして、学校教育課所管事業につきましてお願いします。

【廣地課長】 平成28年度につきましては、南あわじ市学力向上プロジェクト、仮称ですけれども、これらについて取り組んでいきたいと思っております。

市内の子どもたちの学力向上を目指す取り組み、というふうに考えていただけたらと思います。教員も子どもたちも自分の力を知り、その力、課題を伸ばすための手立て、或いはことばの力を育むための読書の推進、読み聞かせ等を行っての活動等をそれぞれ学校でやっていたりしている方々との連携を図りながら、読書活動を推進していく。

また、新学習指導要領が間もなく発表されますけれども、今言われている授業改善に中でアクティブラーニングということもあります。特に教員の資質能力、授業力・授業改善を高めるための取り組み、更に、英語教育の充実などを目指して取り組む予定です。

以上でございます。

【藤岡教育次長】 次に、社会教育課所管事業についてお願いします。

【福原課長】 先ほど、轟委員の方から銅鐸についての質問がありましたが、このことから説明させていただきます。

まず、この銅鐸の保存・活用につきましては、短期計画のものから、中長期に渡る計画を策定していかなければならないと考えております。

まず、短期的なところにつきましては、現在、奈良文化財研究所の方にこの銅鐸がすべてあっております。これの科学的な調査を来年度28年度から29年度にかけて実施していきたいと考えております。内容につきましては、銅鐸、舌それぞれの青銅品の材料分析、できる限り年代を測定できればと考えております。銅鐸の内部に残っております堆積物、要するに砂なんですけれども、その調査もしていきたいと思っております。それから、ひも、銅鐸の内部にありました植物の調査をし、素材を分析すると同時に年代測定をしていくという予定です。

来年度につきましては、その部分を進めながら、調査も進めていきたいと考えてお

りますが、市内の盛り上がりが何とか必要だということで、市民向けの講座をやっていきたくて考えております。一つは、弥生時代を中心とした古代史の話、青銅器についての歴史などの勉強会。それから、市内に点在する遺跡、また島内に点在する遺跡の見学会であったり、県下の重要な遺跡を見学するような計画をしております。そして、もっとわかりやすいようなシンポジウムなどをできたらと考えております。

長期的なものについては、29年度を目途に調査報告書を作成すましておきたいと思っておりますが、中身の方がいろんな部分の調査が増えてきて、30年度までずれ込む恐れがあります。私どもとしましては、展示活用のための委員会を設置していきたいと考えております。その中で、どういうふうな活用、また展示をしていったらいいのかをお話をさせていただいて、決めていきたいと思っております。この展示につきましても、博物館法に則りまして、博物館としての施設並びにそういう機能を持った施設になりますので、一つは現在の既存の施設を改修していくのか、また新しく展示室を建てていくのかなど、委員会の中で検討していただければと思っております。

続いて、伝統文化ということで、淡路人形浄瑠璃の支援についてなのですが、新しく人形会館ができたわけなのですが、集客の方がやはり横ばいの状態になっております。それにつきましては、今後も可能な支援を継続していきたいと考えております。

以上でございます。

【藤岡教育次長】 最後になりますが、体育青少年課所管事業についてお願いします。

【柏木課長】 体育青少年課では、平成27年度からの継続事業としての事業でございます。

まず、スポーツ施設の整備についてでございますが、サッカー場の整備事業に関しましては、平成27年度に引き続き候補地を検討していくということでございます。

2点目の放課後子ども総合プラン事業についてでございますが、この中の学童保育につきましても、先程も申し上げましたとおり、入所要件を満たしている正確な入所希望者を把握したうえで、可能なところから開設に向けて取り組んでまいりたいと思っております。また、学童保育の課題としまして、指導員の確保といったことが大きな課題でございます。1か所に2名以上の指導員という基準がございますので、随時募集をさせていただくなど、そういった指導員の確保も進めてまいりたいと考えております。

以上です。

【藤岡教育次長】 担当課長の方から、28年度以降の教育施策についての説明が終わりました。委員の皆さん方より、ご意見、ご質問をいただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

【轟委員】 学力向上という形があって、なおかつ学校整備で、いろいろしていただいているのですが、子どもを育てるというものは、パソコンをたくさん入れたら子どもが育つものでもないし、指導者が必要であると考えます。指導者不足が今、南あわじ市の小中学校でいわれていることだと思います。定数については理解しているのですが、最大限の定数になるようにするのは、どのようにしたらいいのか。または時間講師で加配といいますか、そういう施策があるのかどうか。特に小中学校の先生からは、小規模校だから人数が少ないから大変だとか、いろいろ聞きますので、その辺、学校教育課はどのように考えているのでしょうか。

【廣地課長】 定数については決められておりますが、兵庫県は、新学習システムの加配、並びに進路指導や生徒指導、また児童生徒支援加配が県費で措置されている加配教員があります。これらについては、県教育委員会と市教育委員会で協議しながら適切な配置に努めているところでございます。

それ以外には、市単ということで、特別支援教育支援員を市の予算の中で配置しております。支援を要する児童生徒のいる学校に、要望を聞きまして配置をしているところでございます。

今申し上げましたような、新学習システム教員や加配教員をという要望につきましては、校長とも協議しながら、配置をしております。

【藤岡教育次長】 よろしいでしょうか。

【轟委員】 結構です。

【藤岡教育次長】 他にございませんか。

【岡委員】 今回の轟先生と同じようなことなのですが、現場としては最近の特に子どもが多様というか、多彩というか、いろいろな子どもが、手のかかる子どもがものすごく多くなってきたと。特別支援ではないのですが、指導に困難を要するような子どもが多くなったということで、正規の定数は決められていると思うのですが、できるだけ市単の先生を、何とか一人でも二人でも多く確保してやっていただけたら、現場は助かるのではないかと。一人の手間のかかる子どもに指導がいきがちなところを何とか助けていただいたら、他の子どもにも指導がいきわたるのではないかと思います。

以上です。

【廣地課長】 貴重なご意見、ありがとうございます。

各学校から、普通学級に在籍する支援を必要とする児童等々につきまして、要望を聞いてそれらをもとに教育委員会としても特別支援教育支援員の配置に向けて努力をさせていただきたいと思えます。

やはり子どもに関わることですから、当然のことながら教員免許の資格、そういったものを取得した人を選んで配置していくよう努力したいと思えます。

【藤岡教育次長】 他に、何かございますか。

【郷野委員】 先日も新聞に載っておりましたが、南あわじ市では、過疎高齢化で急増している空き家を生かそうと、空き家バンク設立など、町の活気を取り戻そうという取り組みが行われています。

先日、学校訪問をした小学校も過疎高齢化が進んでいて、子どもが減り複式のクラスもありましたが、先生方、地域が一丸となって学校を盛り立ててがんばっている姿を目にしました。

今、どことも少子化で統廃合が進んでおりますが、保育料を無料化して集まってくれた子どもたちが、南あわじ市に留まって子どもが増えて、学校が存続できればと願うばかりです。

市長のご理解もあって、南あわじ市は教育環境の整備が進み、子育て世代に喜ばしい取り組みもされておりますが、あと一步、何か他にはない施策を打ち出して、南あわじ市が教育で選ばれる町、教育立市を目指すのもいいのではないかと思います。

先ほどの各担当課長からの事業計画の説明、どれも本当に大切であり、特に学力向上プロジェクトには、大いに期待しております。あとこれはちょっとした参考までに申し上げますが、先日テレビで「子どもの学力を伸ばす姿勢グッズ」という特集があり、「姿勢を正すシート」というものが紹介されておりました。まだ骨や筋肉が柔らかい成長期は、大人以上に「悪い姿勢」の影響を受けやすく、正しい姿勢が集中力を上げ、学習効率もアップ、また運動やトレーニングの効率も上がり、子ども時代から正しい姿勢を身に着けることがいかに大切か言われておりました。来年1月中旬ごろ発売予定なので、もし南あわじ市が購入したら日本初ということで話題になるのではないかと思います。

以上です。

【藤岡教育次長】 子育てや教育施策で選ばれる町づくり、姿勢を正すグッズの教育への活用についてのお話がありましたが、いかがでしょうか。

【岡田教育長】 それぞれ委員の皆さんからは、本当に貴重ないただきありがとうございます。

私も、やはりこれからの南あわじ市にとって、施設整備はかなり進んできましたので、これからは、学校現場の先生の指導力、結果として学力保障に、南あわじ市として担保できるかというところになるかと考えます。

先ほど委員から発言がありました「教育立市」とまでは難しいとは思いますが、学力保障にこれから取り組んでいきたいと考えております。

教育委員会制度が今回改正され、半年余り経過いたしました。我々の立場としましては、それぞれの地域の課題・現状をしっかりと把握して、できるだけ早く対応していかなければならないという思いで取り組む思いでございます。

課題は、結構あります。やはり優先は学力保障でありまして、先ほど廣地課長から申し上げましたが、適切な人員配置に努めていきたいと考えております。

姿勢を正すグッズについては、家庭でのしつけということが、最近弱いという中で、そういうのが出てきたのだと思います。来年「かけっこ検定」というものを考えております。低学年のうちに、走る姿勢をしっかりと早い段階で身に着ける。そうすれば走るスタイルがきれい、また勉強するときの椅子に座った姿勢はきれいだとか、足腰もしっかりと鍛えられるだろうということで、これは仮称なのですが、今日、校長会でこの「かけっこ検定」について考えてもらうように依頼しております。この取り組みで姿勢を正すことにもつながっていくのではないかと考えます。

【藤岡教育次長】 ありがとうございます。

たくさんのお意見がでていますが、予定している時間が近づいてきております。他にご意見がありましたらお願いします。

ないようでしたら、来年度以降の教育施策の方向ということで、市長より総括的なご意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

【中田市長】 先ほど来、皆さんから28年度の教育施策について、たいへん有難いご発言をいただいております。

一つには、銅鐸をせっかく相当、福原課長からありましたとおり、1か月で5,800人ほどの人が見に来るという実績がありますので、今は奈良の文化財研究所に行っているのですが、やはり2～3年先に再度、南あわじ市の一つの「売り」として、できるのかな、と私も思ったりいたしております。ですから、どうかたちでシンポジウムをするのか詳しくは聞いておりませんが、この一つのチャンスを「文化財」という本質だけではなく、南あわじ市の幅広い一つのPR、特に観光のそういうふうなことに何か活用できればな、という思いでございます。このへんは、先程、轟先生や岡先生からもお話がございましたので、担当の方で28年度の向けていろいろと検討していただけたらと思います。

また、どうしても子供の教育の問題も来年度は、学力向上の取り組みという課題が

ございまして、先生方の資質・能力を高めるということ、英語教育をもう少し力を入れるということも、私も聞いていて、そういう方向に進めていってもらえればと思っております。これは郷野委員からありました「教育のまち」「教育立市」というところにも結びつくのではないかと思います。

本当に貴重なご意見、いろいろとありがとうございました。

【藤岡教育次長】 ありがとうございました。

平成28年度、また今後の教育施策の方向について、ということで、委員の皆さん方よりいろいろと貴重なご意見をいただきました。まだまだご意見はたくさんあると思いますが、本年度の事業への取り組みでありますとか、来年度、また今後の教育施策の方向付けにおきまして、参考にさせていただきたいと思っております。また、より具体的な方向付けに向けても進めてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

それでは、次第の協議事項の4番目、その他に移らせていただきます。

何か、ございますでしょうか。

【郷野委員】 4月から施行されました改正地方教育行政法に基づき、教育委員長ポストが廃止され、新教育長に一本化されました。

先日、10月14日、兵庫県の最後の教育委員長の談話が新聞に載っておりました。学校、先生は、情報の共有化や共同作業が苦手で、組織的な姿勢が足りない。いじめ問題、自殺、体罰問題、教育委員の役割はさらに重くなる、とありました。

私は今年度、任期満了で退任いたしますが、当市の教育委員の報酬をドンとあげていただけたら話題となる上、効果があると思われれます。

【岡田教育長】 報酬は、基本的には「報酬審議会」というところで、いろいろな行政機関の委員の報酬が審議されるのですが、隣接する市町の状況を参考にするので、今おっしゃてるように、南あわじ市が急に教育委員の報酬をドンと上げるということは、最終的には、教育委員の活動の如何によると思っております。他の自治体よりも南あわじ市の教育委員は、月のうち何日も出て教育施策について審議しているとか、やはりそれが対価としての報酬ですから、難しいかと思っております。

【藤岡教育次長】 よろしいでしょうか。

【郷野委員】 はい。

【藤岡教育次長】 他に何かございませんでしょうか。

ないようでしたら、今年度定期的な総合教育会議は今日を含めて2回程度としておりましたので、今後臨時的な案件がございましたら開催しますけれども、予定でいきますと、次回は来年度ということになりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、本日の協議はこれで終了させていただきたいと思ひます。

市長の方から、閉会のあいさつをお願ひしたいと思ひます。

【中田市長】 今年度最後の会議ということですが、私思ふには2回が適當であるのかな、先程熱心なご意見があつたとおり、3回やっても別にいいのではないかと思ひますが、お忙しい皆さんでございませうので、また教育委員会の方で、それを今後の課題としていただいたらと思ひます。

貴重なご意見、本当にありがとうございました。今後の課題にしていききたいと思ひます。

ところで、市制10周年ということでございませう。今月15日、日曜日でございませうが、午前9時30分より文化体育館にて、南あわじ市市制10周年記念式典を開催いたします。委員の先生方にご案内を差し上げているところでございませう。お忙しい中ですが、是非ご出席をよろしくお願ひ申し上げる次第でございませう。

今日は、本当にありがとうございました。

【藤岡教育次長】 これで、平成27年度第2回総合教育会議を閉会します。

ありがとうございました。

閉 会 午前11時57分